

# 第35回学校給食作文コンクール 最優秀作品集



令和元年10月

とま千ヨッパ ©2011 544社

苫小牧市学校給食会





## 「幸せな給食の時間」 ～審査を終えて～

第35回学校給食作文コンクール審査委員長

苫小牧市立緑陵中学校 校長 佐藤 彰芳

第35回学校給食作文コンクールに応募、入賞されました18名の皆さん、おめでとうございます。今年度は小学校26点、中学校55点、合計81点の応募作品がありました。

この作文コンクールのねらいは、食材や給食に関わる人たちへの感謝の気持ちをもって欲しい、食を通じて人との交流を大切にしたい、そして給食をどのように受け止めているか教えて欲しい、というものです。

どの作品からも、給食時間を楽しみにしている皆さんの姿や、給食に対する思いや願いが伝わってきます。いろいろな見方・考え方を自分の言葉で表現していました。審査員の多くがなかなか順位をつけられないで困っている様子でした。

低学年の皆さんの作品では、「おいしい給食はみんなの笑顔」という素敵な表現で感謝の気持ちを表していました。給食当番を通して友達と関わり、給食が好きになったという温かい気持ちになれるエピソードも書かれていました。

高学年の皆さんの作品では、昨年の震災の経験から、当たり前給食を食べられるありがたさを実感した内容や、給食献立をお母さんと一緒に家で作ってみて、関わっている人の大変さに共感しながら、感謝の気持ちを表したものもありました。さらには、クラスで誕生日を祝い、牛乳で乾杯する姿も書かれ、ほのぼのとした気持ちになりました。

中学生の皆さんの作品になると、視野が広くなり、親の給食の思い出を含め、給食の歴史を調べたり、世界の給食事情や日本の地域性など調査研究的な要素が含まれてきています。それに対する自分の考えをしっかりと主張しているのも、中学生らしさを感じさせます。一方で、給食時間は会話を楽しむ安らぎの場という、中学校生活の一場面を切り取ったおもしろい作品もありました。

これらの作品に目を通して感じたことは、普段は何気ない給食であっても「人との大切な交流の場」であること。さらに、たくさんの人や物のおかげで食べることができること。そして、これらを作文にすることによって、自分のこととして振り返り、改めて給食に対するいろいろな想いがあることです。まさに、「感謝」・「交流」・「受け止め」でした。

子どもの作文の一節にもありましたが、「作る側も、食べる側も、『愛情という魔法』がかかった給食が『パワーの源』となり、『幸せな給食の時間』であり続けること」を祈っています。

## 第35回学校給食作文コンクール 入賞作品

### 【 最優秀賞 】

#### 小学生の部

1学年の部	拓勇小学校	1年4組	丹波 蓮翔	「しょうがっこうのきゅうしょく」
2学年の部	ウナイ小学校	2年4組	池田 想	「きゅうしょくはかせ」
3学年の部	該当なし			
4学年の部	泉野小学校	4年2組	桜井 美緒奈	「給食を作るって、すごいな。」
5学年の部	美園小学校	5年2組	鹿嶋 ひな	「大好きな学校給食から学んだこと」
6学年の部	拓勇小学校	6年4組	丹波 栳琳	「給食の歴史にズームイン！」

#### 中学生の部

1学年の部	明野中学校	1年3組	片山 司	「命に感謝して」
2学年の部	該当なし			
3学年の部	光洋中学校	3年3組	今川 ルル	「美味しい給食」

### 【 優秀賞 】

#### 小学生の部

1学年の部	拓勇小学校	1年4組	山形 唯	「だいすきなきゅうしょく」
2学年の部	苫小牧東小学校	2年1組	福地 花音	「わたしの大好きなメニュー」
3学年の部	豊川小学校	3年2組	藤井 楓	「豊川小学校の美味しい給食」
4学年の部	大成小学校	4年2組	高橋 陽稀	「子どもたちへの思いが詰まった給食」
	沼ノ端小学校	4年1組	工藤 桔伊	「当たり前ではない給食」
5学年の部	拓勇小学校	5年3組	山田 晴太	「学校給食について」
6学年の部	日新小学校	6年1組	戸田 智菜	「値段は安め愛情深め」

#### 中学生の部

1学年の部	緑陵中学校	1年3組	高安 音花	「幸せな給食の時間」
	青翔中学校	1年1組	登藤 芭菜	「日本の給食」
2学年の部	明野中学校	2年2組	多田 夏葵	「給食について」
3学年の部	光洋中学校	3年1組	小山 凜花	「給食とは」

応募点数 小学生26点 中学生55点 合計点81点


## 目次

### 《小学生の部 最優秀賞》

- 1学年の部 題名「しょうがつここの  
きゅうしょく」……………1  
拓勇小学校 1年4組 丹波 蓮翔
- 2学年の部 題名「きゅうしょくはかせ」……………1  
ウトナイ小学校 2年4組 池田 想
- 4学年の部 題名「給食を作るって、  
すごいな。」……………2  
泉野小学校 4年2組 桜井 美緒奈
- 5学年の部 題名「大好きな学校給食から  
学んだこと」……………3  
美園小学校 5年2組 鹿嶋 ひな
- 6学年の部 題名「給食の歴史にズームイン！」……………4  
拓勇小学校 6年4組 丹波 椀琳

### 《中学生の部 最優秀賞》

- 1学年の部 題名「命に感謝して」……………5  
明野中学校 1年3組 片山 司
- 3学年の部 題名「美味しい給食」……………6  
光洋中学校 3年3組 今川 ルル



## 小学生の部 最優秀賞

1学年の部 拓勇小学校 1年4組 丹波 蓮翔

しょうがつこうのきゅうしよく

ぼくは、ようちえんのと きも、きゅうしよくをたべていました。ようちえんのきゅうしよくにくらべてがつこうのきゅうしよくは、りょうがおおく、ぎゅうにゆうもまいにちです。だからにゆうがくしたころは、きゅうしよくをぜんぶたべることができませんでした。きゅうしよくのじかんも、たのしくありませんでした。

でも、ぼくにもひとつだけたのしみがありました。それは、きゅうしよくとうばんです。きゅうしよくとうばんは、よそうひとやバケツにみずをいれるひとなどたくさんおしごとがあります。ぼくは、はじめてきゅうしよくをよそうときに、こぼしてしまいました。「むずかしいな。」とおもいました。でも、なんかいもきゅうしよくとうばんをすると、うまくよそうことができて、たのしくなりました。

うまくよそえたときは、クラスのおともだちもよろこんでくれました。それをみてぼくは、うれしくなり、きゅうしよくとうばんがすきになりました。

きゅうしよくとうばんがすきになったら、なぜか、きゅうしよ

くもすきになりました。きゅうしよくもじかないに、ぜんぶたべられるようになっていました。いまでは、たまにおかわりもします。ぼくは、みんなをえがおにするしょうがつこうのきゅうしよくが、だいすきです。

これからも、たくさんたべたいです。

2学年の部 ウトナイ小学校 2年4組 池田 想

きゅうしよくはかせ

わたしのおねえちゃんは今朝、きゅうしよくのこん立ひようを見てから学校に行きます。大すきなメニューがあると、「わあい。カレーだ。」ととてもよろこびます。

どうしてそんなにきゅうしよくがすきなのか聞いてみたら、二年生のときに行った「きゅうしよくセンター見学」がきっかけでした。たくさんの方がりょうりしていたこと、見たこともない大きなべでおんしよくをつくっていたこと、そのおんしよくがとてもおいしかったことを教えてくれました。

わたしはきゅうしよくセンターへ見学に行くのがとてもたのしみになりました。どれくらいの人で、どうやってつくっているのかなどしらべて、「きゅうしよくはかせ」になりたいと思います。そして、おねえちゃんみたいにきゅうしよくのことをもつとすきになってみんなといっしょにおいしくたべたいなと思いました。

4学年の部 泉野小学校 4年2組 桜井 美緒奈

給食を作るって、すごいな。

今日わたしは、給食のおたよりにのついていた吉野汁をお母さんと作ってみました。私は、給食に出る吉野汁が大好きなので、家でも食べたいし、家族にも食べてもらいたいなと思いました。油あげは短ざく切り、人参は千切り、長ネギは小口切り、ごぼうはさががき。エンピツみたいでした。色んな切り方がありました。材料をはかって切って、油でいためて、かつお節で、だしもとりました。私がいっつも給食で食べている一ぱいの吉野汁を作るのに、たくさんの手間と材料が必要なのがわかりました。油でいためる時は、暑くて汗がでてきました。作っている時に、春に学校のげんかんに給食センターで使っているヘラとなべの実っさいの大きさが展示してあったのを思い出しました。なべもとっても大きくて、ヘラなんて私のかたぐらいままでありません。

私が今日使っていたヘラの五倍以上の大きさです。今日私が使ったヘラの大きさと作った量でも切るのも、いためるのも、大変だったのに、そんな大きなべとヘラで作るなんて、どんなに大変なんだろうと思いました。きつとそんなに大きなヘラだから、何人かで持っていたかと思ってお母さんに話しをしたら笑って「一人で持ってたよ。」と教えてくれました。びっくりしました。

グツグツと、にえてきたなべに、おしょうゆなどで味をつけ、味見をして家族に食べてもらいました。みんながおいしいといつてのこさず食べてくれて、私も3回もおかわりをしました。あつ

たかい吉野汁をたべてなんだか作ったものをみんながよろこんで食べてくれるってうれしいなって体はもちろん、心もあつたかくなつたような気がしました。そして、いつも、私たちのためにいっしょうけんめいに給食を作ってくれている人達にありがとう、いつもおいしいよ、の気持ちを伝えたくて作文を書いてみることにしました。

でも今日私が作った吉野汁もおいしかったけど、給食でたべる味の方がもっとおいしいような気がしました。みんなと食べるからかな。たくさんの人達のいっしょうけんめいの気持ちが入っているからかな。これからは今までよりもっとかんしゃして、給食をたべようと思いました。

そして家族がよろこんでくれたのでまた作ってたべようと思います。

いつもおいしい給食を作ってくれてとどけてくれてありがとうございます。ごさいます。

そしてのこったかつおぶしは、味をつけておにぎりにしてたべました。おいしかったです。

5学年の部 美園小学校 5年2組 鹿嶋 ひな

大好きな学校給食から学んだこと

私が学校給食を好きになったきっかけは、小学校の体験入学です。一年生のお兄さん、お姉さんと体育館で鬼ごっこやゲームをした後に、学校給食を初めて食べました。すごくおいしくて、早く一年生になって毎日食べたいと思いました。私の低学年の時の担任の先生は、たくさん温食やご飯をもってくれました。そして、たくさんおいしい給食を食べました。毎日給食を完食して、おいしく食べたいと思っています。

給食の良い所は温かく食べられる事です。お弁当は冷めてしまうこともあるけど、給食は温かくてリラックスできるからです。私の一番好きなメニューはうどんです。温かい汁に良い味がついて、うどんの麺と良く合うからです。それに、机を友達とくっつけて色々な話をしながら食べると更においしく食べる事ができます。他の地域の料理などが出てきて勉強になります。苦小牧のホッキを使っているホッキカレーは楽しみのひとつです。給食の時間では、栄養の先生がマナーも教えてくれます。茶わんの置き方にも気をつけるようになりました。温食とご飯の置き方が分からなくなる時がありますが、その時は給食指導で言われた事を思い出して注意しています。家ではお母さんに「ご飯粒や細かい物も食べていて一番きれいだね。」と言われます。学校でもご飯粒や細かい物も食べています。お皿がきれいになるとスツキリし、完食できたなと思います。私は、給食当番ではない日も片付けを手伝います。みんな協力して片付けると、早く終わってみ

んなが昼休みに遊べるからです。食べるだけでなく後片付けも手伝ってほしいなと思います。私は毎日献立表を見ています。そのようにみんなにも給食について興味をもってもらいたいです。みんなが好ききらいをせず、給食の時間を好きと思ってもらえたらうれしいです。

学校の宿題で「ゆでる料理を作ろう」という報告書を書く事になり、私はポテトサラダを作りました。その時の気温は二十度ぐらいあつてすごく暑くなりました。そういう日でも、調理員さんはみんなの安全のために帽子やマスクなどをしてくれています。その一生懸命に作ってくれた給食をきれいに食べて調理員さんへの元に返したいなと思いました。そんな私の将来の夢は料理関係の仕事につくことです。コックさんや調理師を目指したいなと思います。子供でも大人でもおいしいと思う、味も濃すぎず家の料理のようなやさしい味の料理を作りたいです。これからもマナーを守っておいしく楽しく食べられたらいいなと思います。

学校給食は色々なことを教えてくれます。栄養士さんはバランスを考えみんなの健康に気をつけてメニューを考えてくれます。中学生で給食が終わると聞いています。その時まで全力で給食を食べたいと思います。



6学年の部 拓勇小学校 6年4組 丹波 椀琳

給食の歴史にズームイン！

私の小学校では、給食についてのけいじ板がある。体育館前にあるので、よく目にする。私は給食が大好きだし、けいじ板を見ると、今の給食のメニューや栄養のことなど、いろいろなことを知れるので、ついついじっくり見てしまう。そんな中、私が今までで一番印象に残っているけいじ板は、給食の歴史について書かれていたけいじ板だ。私は、もともと歴史が好きだ。しかし、社会では給食の歴史は勉強しない。そこで、カラフルにまとめあげる給食の歴史に興味をもち、もっと知りたくなったので、調べてみることにした。

日本で初めての学校給食は、千八百八十九年（明治二十二年）に、山形県つる岡町の私立忠愛小学校で始まった。当時、貧しくて弁当を持つてくることができない子ども達のために給食を支給した。当時の給食は、「おにぎり」「塩じゃけ」「おつけ物」と簡素なメニューだった。その後、昭和二十七年（千九百五十二年）四月から、全国全ての小学校を対象に給食を支給した。そのころのメニューは、だつし紛乳が取り入れられており、その後、今のような牛乳に変わっていった。

私は、給食が弁当を持つてこれられない子ども達のために始まったことにびっくりした。そして、昔の給食のメニューは、今のような栄養バランスがとれた給食ではなく、ひとまず、みんなで食べるということに重点を置いていたように感じた。今より貧困そうが多く、食べられるだけでありがたかった。

その後、時代とともに食生活も様変わりをした。明治と令和では、小学校生活や日常生活においても、かなり変化をしている。ひとまず食べるということから始まり、今ではカロリー計算がされていたり、一日にとるべき量のどのくらいを摂取するとよい、というように、給食についての栄養のわり合やバランスが言われたりするようになった。

その一つが「食育」だ。給食が始まった明治のころには、食育をするゆとりもなかった。戦争などがあり、生きていくのが必死な時代だ。それが今では、食べ物の育ち方を学んだり地産地消を考えたりと、食べ物について考える機会が多い。そこから、栄養のバランスや一日にとるべき量などを学ぶゆとりがある。平和とともにゆとりが生まれ、栄養のことなどを勉強するゆとりが生まれた。

給食は、日本の歴史と関わりがあることがわかった。私は、日本が平和で豊かになるにつれ、給食は年々進歩してきていると感じた。明治のころのように、弁当を持つてくることができない子ども達も少なく、今のような栄養バランスのとれた給食が食べられること、また、今のような生活がおくれることに、私は感しやの気持ちを忘れず、これからも、学校給食を楽しんで食べたい。

## 中学生の部 最優秀賞

1学年の部 明野中学校 1年3組 片山 司

### 命に感謝して

僕は、生まれて一度も食べ物に困った事がない。家にいればお母さんがご飯を作ってくれるし、学校では栄養バランスの考えられたおいしい給食を食べる事ができる。食べ物に困ることは一切なく、むしろ余るくらいだ。

しかし世界には、食べ物が少ししか食べれない国がある。アフリカ大陸中央に位置する南スーダンという国は何年もの間、内戦状態が続いている。そのため、人口の六割が食糧不足となっているそうだ。一日の食事が学校の給食だけという子供達がいる事を知ってとても驚いた。それもお皿一つだけ。栄養が全然足りていない。しかし、南スーダンの子供達は明るく元気に一生懸命勉強をしていた。給食を食べるために、早起きして登校する子供もいる。南スーダンの子供達は、一日一日の給食をとっても楽しみにしており、給食のおかげで勉強ができる感謝しているそうだ。

そういえば、小学生の時の担任の先生が、給食の時間の「いただきます」の前に、「食べ物に感謝をしましょう」と必ず言っていた。それは、食べられる事のありがたさや、食べ物を大切にすることをぼくたちに伝えたかったのではないか。

ぼくには、心に残る一冊の本がある。大野正人さんの「命はどうしてたいせつなの？」という本だ。命をもらって食べる、これ

が生きるということ。肉や魚など、人はたくさん命をもらって生きている。大昔の人は、狩りや採集など苦労をして食べ物を得ていた。しかし、時代は進み、多くの人が自分の手で命を取り上げなくても、食べる事ができるようになった。だからこそ人は、命をもらって生きていることを、忘れやすくなったのかもしれない。命をもらっている、だから、その命に感謝をしなければならぬ。それを表す言葉が「いただきます」なのだ。いつも、何気なく口にして言っている言葉だが、実は自分を大きくしてくる命にむけた、感謝の言葉。これを何年も続けていけば、きっと命をもらって生きている事が分かるだろう。

給食は、ある意味一つの授業だと僕は思う。命をもらっている事、その命を食べられる事への感謝を、クラス全員が再認識する場なのではないか。たくさん命をもらって大きくなった自分の命だからこそ、大切にしなければならぬ。自分の命を大切に思えば、周りの人の命だって大事だと思える。おいしい給食を食べながら、みんながそんな事を感じられたら、自分と相手とを尊重し、おたがいに助け合える事のできるクラスになるのではないか。

今日も、待ちに待った給食の時間がやって来た。はやる気持ちを抑え、まずは目の前の給食へ感謝の気持ちを込めて大きな声で言いたい。

「いただきます！」

美味しい給食

私は、小学生の時から9年間食べている給食について書いていこうと思います。まず私は、給食はとても美味しいものだと思います。種類が豊富で、焼く、煮る、揚げる、炒める、蒸すなど、たくさんの調理方法があります。

そして、長所は三つあります。一つ目は、友達と一緒に盛り付けをしたり、食べる時に会話が出来て楽しめたり、友達との仲が深まることです。だから私は、給食当番になった時は嬉しいことです。二つ目は、苦手な食べ物がたべられるようになることです。私は春巻きやプリンが苦手でした。だけど小学生の頃、友達に

「春巻きもプリンも美味しいよ。」  
と言われ、給食で出てくるたびに食べていたら、食べられるようになりました。最初は、苦手意識があって食べていなかったけれど、挑戦してみると美味しく、挑戦することは大切なことだと給食から学びました。三つ目は、お米やお味噌汁などの和食、パンやピラフなどの洋食、小籠包や春雨スープなどの中華など、たくさんのカテゴリーが食べられることです。家でお母さんは作らないけれど、給食で出るメニューは結構あるので、それが食べれて嬉しいです。

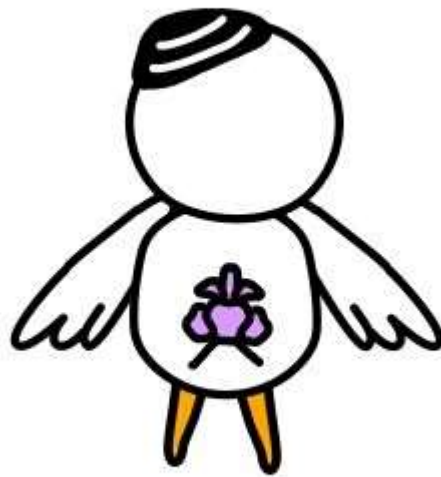
それに月末には、給食献立表が配布されます。献立表には、一か月分の献立が書かれていて、その月から出る新メニューや旬の食材の情報が載っています。新メニューは、最近、流行している

メニューや全然知らないメニューが出たりするので、毎月、配布される時は、ドキドキワクワクです。

また、お父さんに毎月の給食費を聞くと、一日二百円で食べられるくらいと教えてくれました。家で二百円では、いつもの給食は作れないので、凄いなと思いました。

最後に、朝食を毎日食べて学校に来ていない人がいたり、家庭によつては、栄養バランスがきちんと取れていない人がいる中で、学校給食は栄養不足を解決できても大切だと思います。栄養バランスや健康面を考えてくれている人、成長期の生徒がお腹いっぱいになるまでの量の給食を毎日作ってくれている人、食材を作ってくれている農家の人達に感謝することも必要です。そのためにも、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」「は心から感謝を込めて言おうと思います。」

そして、来年からは、高校生になるので、昼食は自分で弁当を持っていくことになりました。だから、残りの給食生活を楽しく、美味しく、好き嫌いをゼロにしたいこうと思います。



## 苫小牧市学校給食会

令和元年10月発行

---

第1学校給食共同調理場

〒053-0053 苫小牧市柳町1丁目3番5号 0144-57-5881

第2学校給食共同調理場

〒059-1272 苫小牧市のぞみ町2丁目7番3号 0144-67-1815